

本時のねらい

- ・曲にふさわしい演奏表現を工夫しながら演奏することができる。
- ・発表時に表示するスライドをグループで作成することができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・演奏練習時に自分に必要な楽譜を自己選択、あるいは共有することができる。
- ・録音・録画による自分や他者の演奏を確認することができる。
- ・発表時に表示するスライドを共同編集することができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ロイロノート・スクール
- ・Google Classroom
- ・Microsoft PowerPoint
- ・電子黒板

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5 分)	本時の学習課題 「曲にふさわしい演奏表現を工夫しながら演奏することができる。」 「発表時に表示するスライドをグループで作ることができる。」 ・前時までのアンサンブルの復習を行う。 ・本時の課題を生徒自身で設定する。	・プロット図を用いて授業の流れを電子黒板に提示する。 ・Google Classroom で単元全体の授業の流れも提示しているので、見通しを持てる。 ・生徒は、授業内容をロイロノートの資料箱からとり出して確認することができる。
展開 (40 分)	・グループで、発表時に表示するスライドを作成する ・各グループのグループ名、メンバー名、パート割、目標、自分たちや曲に合ったイメージを、イラストを交えながら 1 枚のスライドにまとめる。 ・発表について打ち合わせた前時の内容を、実際に演奏できるように繰り返し練習する。(誰の合図で始めるか、どのように並ぶのか、テンポはどうするのか等) 【写真 1】【写真 2】【写真 3】	・Google ドライブに入っている Windows の PowerPoint を共同編集する。 ・ロイロノート・スクールや Google Classroom を活用しているグループもある。 ・自分がきちんと演奏できているかを客観視するために、必要としたタイミングで録音や録画を行う。
まとめ (5 分)	・単元におけるゴールまでの課題設定時間を再確認して、各自の進捗状況を振り返る。	・電子黒板の画面に単元におけるゴールまでの流れや、学びの進め方を再度提示し、課題設定時間を再確認した中で、各自の進捗状況を振り返る。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】グループでスライドを作る様子



【写真 2】自分に合った楽譜で練習している様子



【写真 3】グループで合わせ練習をしている様子

児童生徒の反応や変容

授業内では、見本の映像も提示しているため、生徒たちは、必要に応じてそれを参考にしながら学習を進めることができていた。グループでのスライド作成の場面では、自分たちの目標や曲のイメージをまとめながら、よりよい演奏表現に向けて積極的に学び合う場面も見られた。また、読譜が苦手な生徒もロイロノート・スクールの共有ノートを活用して自分に合った楽譜を選び、苦手な部分で立ち止まりながら何度も練習する姿も見られた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・曲のイメージや単元のゴールが、教科書やワークシートを見るだけでは不十分だったが、1 人 1 台端末を活用することで、音や映像を参考にすることができるので、ゴールまでのイメージを視覚的・聴覚的に支援できるようになった。
- ・先生からの指示待ちではなく、自身で課題を見つけ、課題解決に向けて他者の成果物等から情報収集をしたり、分析したりしながら学びを進めていくことができるため、探究的な学びを進める生徒も出てきている。